

Editorial

今月号の特集について

西塚 至

東京都保健医療局

ペニシリンの普及で「過去の病気」と思われてきた梅毒の増加が止まりません。2023年に全国から報告された梅毒の感染者数は速報値で1万4,906人に上り、現在の方法で統計を取り始めて以来最多となり、「性感染症」の広がりが見え隠れしています。

本特集「梅毒急増！性感染症対策最前線」では、感染拡大の背景に何があるのかを探るべく、疫学、性教育、ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチ、医療、妊婦健診、相談援助、自粛下の性暴力問題など最新情報をまとめました。以下、必読ポイントを一部紹介します。見えてきたのは、感染リスクが身近にあるにもかかわらず、適切な予防や治療につながらない実態です。公衆衛生活動の参考書としておすすめの1冊です。

■**真の梅毒症例数は？**…伊東花江先生ら（国立感染症研究所）が梅毒の疫学を解説。実際の梅毒患者数は報告数の4～8倍も発生している可能性があるとの研究結果も交え、最新情報を紹介します。

■**性教育の現状は？**…今村優子先生（日本医療政策機構）が諸外国に比べて遅れているわが国の性教育を解説。SRHR（性と生殖の健康と権利）に関する教育・相談の機会を全ての人が得られる社会の実現への展望を提示します。

■**自治体の取り組みは？**…西塚 至がポピュレーションアプローチの視点から、東京都の梅毒の動向や若者対策について紹介します。

■**性風俗産業に対する取り組みは？**…渡會睦子先生（東京医療保健大学）がハイリスクアプローチの視点で解説。性風俗産業の実態調査や国や自治体の取り組みを紹介。性風俗産業への介入を検討する自治体にとって大変参考になる内容です。

■**梅毒を見逃さないために**…小堀善友先生ら（プライベートケアクリニック東京）が梅毒の診療について解説します。「ややこしい」梅毒抗体の評価や「間違いやすい」疾患が一覧でき、相談・保健指導の際に便利。

■**増加する女性の梅毒/先天梅毒**…川名 敬先生（日本大学）が先天梅毒の問題を取り上げます。女性の梅毒が流行期前と比べ10倍以上に増加した背景に迫ります。

■**ユースクリニックとは？**…北欧のユースクリニックは、若者が無料で利用でき、性に関する疑問や性感染症のことなど多様な相談に専門家が対応する場。門間美佳先生（藤沢女性のクリニックもんま）は、わが国ではまだ少ないユースクリニックについて、自治体、婦人科医院、NPO等が運営する30の事例を紹介します。

■**自粛下に妊娠や暴力が増えたか？**…北村邦夫先生（日本家族計画協会）は、コロナ緊急事態宣言下の日本人1万人調査をもとに、自粛を余儀なくされた若者の性意識・性行動を分析。妊娠相談の増加、DV暴力、女性の自殺などが報道されていますが、果たして実際はどうだったのでしょうか。必読です。